

世よの終おわり

秋あきの終おわり

秋あきの終おわりをつげることができることにどんなことがあるか考かんえて、次つぎの空くう白はくに書かいて下ください。

世よの終おわり

イエスさまの時代じだいの人ひとたちは、世よの終おわりについ

て、とくに関かん心しんをもっていました。当とう時じは、ローマ

の支し配はい下かにおかれていて、独ど立りつした国くにではなかつた

らです。人ひとびとはいつも夢ゆめのような話はなしを語かたりあつ

ていました。それは、人ひとの子こが雲くもに乗のってあらわれ、

神かみさまに選えらばれた人ひとたちを、四し方ほうから集あつめるとい

ものです。

もし、あの日ころ頃げん、現いん代さつぎのような印いん刷さつぎ技じ術じゆつがあつたら、

世よの終おわりについての夢ゆめ物もの語がたりを描えがいた本ほんが、飛とぶ

ように売うれて、ベスベスストセセラーになつたことでしょう。

それほど、人ひとびとは、世よの終おわりに関かん心しんがありま

した。世の終わりには、神さまが人びとを治められる。ローマの支配者たちは、散らされて、自分たちの理想的な国ができると考えていました。

イエスさまは、このような世の終わりについて、どのように考えているのか、弟子たちはたずねました。イエスさまは、世の終わりについて否定はしませんでした。しかし、話の中心は、いつも、いま、気をつけていなさいということでした。

「世の終わりがいつくるか教えてもしかたない。神さまだけが知っておられるのだ。だから、そんな

ことで頭を痛めることはない。もつとすべきことがあるはずだ」とイエスさまは答えられました。

自然破壊がすすみ、地球に住めなくなる時代が来るかもしれません。しかし、いまの世界がよくないのなら、ただ、世の終わりを期待するのではなく、いま、自分が何をしたらよいかを真剣に考えるべきなのです。

